

1. 現代, the age we live in; 2. 把權者, possessors of power; 3. 惜む, to lament.

【譯】 To complain of the age we live in, to murmur at the present possessors of power, to lament the past, are the common dispositions of the greatest part of mankind.

【註】 上例の如く主格を重ねる時には一々 comma で切らねばならぬ。To lament the past は「過ぎさりし世を惜む」の意で lament の意味に注意を要する。此句は to look wistfully back at the past とも云ひ得られる。

94. クラレットは兒童の飲料; ポートワインは大人の飲料だ; 然し須らく大立者とならんと欲する人は宜敷ブランを用ふべし。

1. 兒童の飲料, the liquor for boys; 2. 大立者, a hero; 3. ならんと欲する人, he who aspires to be.

【譯】 Claret is the liquor for boys; port for men; but he who aspires to be a hero must drink brandy.

【註】 Aspire は「大望を懐く」といふ場合に用ゐる。Hero は「英雄」と云ふよりずつと意味の廣い寧ろ「大立者」と云ふに近い語である。Semicolon の用法に注意すべし。

95. 所謂鐵道といふものは世界を小さくする工風に過ぎない。

1. 所謂鐵道, your railroad; 2. 工風, a device.

【譯】 Your railroad is only a device for making the world smaller.

【註】 Your は「君等のよく云ふ」位の意で英語では場合によりては如何なる名詞の上にも your, our 等を置いて差支へない。

96. 旅行の用途は現實を以て想像を調整するにある。又如何なるものならんかと思ふに代ふるに物を有りの儘に見るにある。

1. 用途, the use; 2. 現實を以て, by reality; 3. 調整する, to regulate; 4. 如何をるものならんかと思ふ, thinking how things may be.

【譯】 The use of travelling is to regulate imagination by reality, and instead of thinking how things may be, to see them as they are.

【註】 How things may be は日本語の「どんなものかしら」に相當してゐる how の用法に注意すべし。To see them as they are は「實物を見る」の意で此形は英語にはよくあるが應用する場合に一寸出ぬから合せて記憶するがよい。

97. 少年少女が暗誦し得るものにはあらずして、彼等が愛し且賞美すべく知りしものこそ、彼等の品性を形成するところのものである。

1. 暗誦し得る, can repeat by rote; 2. 愛し且賞美すべく知りし, have learnt to love and admire.

【譯】 Not what a boy or girl can repeat by rote, but what they have learnt to love and admire, is what forms their character.

【註】 Not what.....but what の用法に注意せよ「.....

にあらずして……こそ」と云ふ場合は之を用ひてよい但し此句法は會話調ではないから場合の適不適を考へて應用せねばならぬ。

98. 吾人の此世に於ける仕事は成功せんとするに在らずして、元氣好く失敗を續けることである。

- 1. 吾人の此世に於ける仕事, our business in life;
- 2. 元氣好く, in good spirits.

【譯】 Our business in life is not to succeed, but to continue to fail, in good spirits.

【註】 英語の business は日本語の「仕事」より意味の廣きに注意すべし。In good spirits は with a good grace とも云へるが之は「嫌な様子をしないで」の意味である。

99. 私は何人と雖も自分流義に人を瞞まされぬものはないと思ふ; だから發見されぬ者だけが正直なのである。

- 1. 自分流義に, in his way;
- 2. 瞞す, to cheat;
- 3. と思ふ 'tis my opinion.

【譯】 'Tis my opinion every man cheats in his way; and he is only honest that is not discovered.

【註】 「……だと思ふ」と軽く云ふ時は 'tis と i を略して英語では云ふ習慣である; in his way は after his fashion とも云ふ事も出来る。

100. 技能は、理智の中に在るもので、相傳することが少なくなると; 天才は、推理と想像の作用であるから、(相傳ふことは)非常に稀か或は全然ない。

- 1. 技能, talent;
- 2. 相傳する, to inherit;
- 3. 推理

と想像の作用, the action of reason and imagination.

【譯】 Talent, lying in the understanding, is often inherited; genius, being the action of reason and imagination, rarely or never.

【註】 日本文に於ては「相傳ふことは」を省くと意味が不明になるが英語では句讀法によつて之を差支へなく省略し得られる。Inherited の次の semicolon を省き while としてもよい。

EXERCISE II.

1. 人間は働かねばならない、此世には怠け者のゐる場所はないのだから。

- 1. 人間, men;
- 2. 怠け者, idlers;
- 3. 場所はない, there is no room.

2. ネルソンは見へぬ方の眼に望遠鏡を押し付けて見る風をしたとして何の信號も見へぬといふた。

- 1. 見へぬ方の眼, his blind eye;
- 2. 押し付けた, clapped;
- 3. 見る風をした, made a pretense of looking.

3. 労働者は其賃銀を得べきものである而して怠惰なる者も亦其賃銀即ち飢餓を得べきである。

- 1. 労働者, the labourer;
- 2. 其賃銀を得べきものである, is worthy of his hire;
- 3. 即ち飢餓, namely, starvation;
- 4. 第二の「賃銀」及「得べきである」は略して英譯すべし。

4. 國家は皆彼に援助を與へたが彼の人格を辯護しやうとする者は無かつた。

1. 國家は, the country; 2. 援助を與へた, supported; 3. 人格, private character; 4. 者は無かつた, few were found.

5. 卓上には實際に御馳走が所狭く並べてあつた。

1. 實際に, literally; 2. 御馳走, good cheer; 3. 所狭く並べてあつた, loaded with.

6. 原稿を失つてしまつた其爲に其著述は書直さねばならなかつた。

1. 原稿, the manuscript; 2. 其爲に, and in consequence; 3. 其著述, the work; 4. 書直す, to be re-written.

7. 彼は戦慄した; 彼の顔色は蒼白になつた; 彼は哀訴の様子をして彼を見た。

1. 顔色は蒼白になつた, grew pale; 2. 哀訴の様子をして彼を見た, threw an appealing look at him.

8. 風説は全然虚構であつた; 故に彼は之を極力否定した。

1. 虚構, false; 2. 故に, accordingly; 3. 極力否定した, gave it an emphatic denial.

9. 王自身捕虜の爲に執成したが王の辯護も無効であつた。

1. 捕虜の爲に執成した, interceded for the captive; 2. 王の辯護も, his pleadings.

10. 世の中に友誼なるものは甚稀である, が其中でも

同じ身分の人の中に特に稀である。

1. 友誼, friendship; 2. 甚稀である, there is little; 3. 其中でも特に稀である, and least of all.

11. 吾人の此世に於ける最大要求は吾々に出来る事をさせてくれる人である。

1. 此世に於ける, in life; 2. 最大要求, chief want; 出来ることをさせてくれる人, somebody who shall make us do what we can.

(12) 友人となつてゐるのは友人を作る程容易ではない。

1. friends を主格にして英譯せよ; 2. なつてゐるのは作る程容易, so easily made as kept.

13. 玉突の上手だと云ふことは青年時代を空過した一の證據である。

1. 玉突の上手だといふこと, to play billiards well; 2. 青年時代, youth; 3. 空過した, ill-spent; 4. 證據, a sign.

14. 天才にして批評家の呼吸の爲に枯らされたものはない。

1. 天才にして.....のことはない, No genius was ever; 2. 枯らされた, blasted.

15. 使丁になつても日傭取りになつても紳士として恥づる處はない; が悪徒になるのは恥辱も亦甚しい。

1. 使丁, an errand boy; 2. 日傭取り, a day-labourer; 3. 悪徒, a knave; 4. 恥辱も亦甚しい, it disgraces him much.

16. 恥は之を避けよ。されど盛名を求むる勿れ——盛名程高價なるものはなし。

1. 避けよ, avoid; 2. 盛名, glory; 3. 求むる勿れ, do not seek; 4. 高價なる, expensive.

17. 吾人の幸福は政治機關に依ることは少なく、吾人の心の鍛鍊と調整に依ることが多い。

1. 政治機關, political institutions; 2. 依ることは少なく, depends little; 3. 鍛鍊と調整, the temper and regulation.

18. 道路に於けるが如く、處世に於ても、最捷徑は多く最惡路である、そして良道とても大した迂回はないのだ。

1. 道路に於けるが如く處世に於ても, It is in life, as it is in ways; 2. 多く最惡路, commonly the foulest; 3. 良道, the fairer way; 4. 大した迂回ではない, is not much about.

19. 分別のある人は急ぐことはあるが、惶はてることは決してない、惶はててやれば必ず何でも非常に下手に出来ることを知つて居るから。

1. 分別のある人, a man of sense; 2. 急ぐことは, in haste; 3. 惶はてることは, in a hurry; 4. 必ず, necessarily; 5. 下手に出来る, do very ill.

20. 歴史は殆ど人間の罪惡、愚行、及災難の記録と云ふに過ぎない。

1. 殆ど……と云ふに過ぎない, is little more than; 2. 人間の, of mankind; 3. 災難, misfortunes; 4.

記録, the register.

21. 正直は最上の手段である、然し此主義を本として事を行ふ人は正直者ではない。

1. 最上の手段, the best policy; 2. 此主義を本として事を行ふ人, he who acts on this principle.

22. 純潔は名譽の女性、眞理は之が男性である。

1. 純潔, purity; 2. 女性, the feminine; 3. 男性, the masculine.

23. 希望せざることは希望することよりずつと早く來るものである。

1. 希望せざること, What is not hoped for; 2. 希望すること, what is hoped for; 3. 來る, happens.

24. 吾人は往々人性と吾人が交際する人間とが全く同一物と想ふことがあるが、之は大なる誤解である。

1. 人性, human nature; 2. 吾人が交際する人間, the persons we associate with; 3. 全く同一物, one and the same thing.

25. 他人の權利を尊重するのが一の義務ならば、自分自身のを支持するのも亦一の義務である。

1. 他人の權利を尊重する, to respect other men's claims; 2. 自分自身のを支持する, to maintain our own; 3. のも亦, so also.

SECTION V.

1. 彼が年老いたる王を捕虜とした時彼は息子の如くに王に侍べり、王に奉仕し、王を慰めて、彼の老年、彼の身分を尊敬し、又不幸に同情を表した。

- 1. 王に侍べり, attending him; 2. 慰めて, consoling; 3. 彼の老年, his age; 4. 尊敬し同情を表した, revered.

【譯】 When he made the old king his prisoner, he revered his age, his station, his misfortunes; attending him, serving him, consoling him, like a son.

【註】 Reverenced が「尊敬し同情を表した」の意に通用せられたるに注意すべし。此英文を loose に變へると：—

He revered the age, the station and.....when he made him his prisoner ;.....となる。

2. 葬式の前に花を撒き、そして之を此世を去りし友の墓に植うことは田園生活の中の美はしく且質樸な風習の一である。

- 1. 花を撒き, strewing flowers; 2. 此世を去りし友, departed friends; 3. 田園生活, rural life.

【譯】 Strewing flowers before the funerals, and planting them at the graves of departed friends, are among the beautiful and simple-hearted customs of rural life.

【註】 此英文は次のやうに書く事も出来る：—

Among the beautiful and simple-hearted customs of rural life, are those of strewing flowers before the funerals, and planting them at the graves of departed friends.

3. 下級民の悦樂の中には、それが上級の人々の賜物と親密とに鼓舞された場合に、素純で情愛に富んだところがある。

- 1. 下級民の, of the lower orders; 2. 上級の人々, those above them; 3. 鼓舞された, excited; 4. 素純, genuine.

【譯】 There is something genuine and affectionate in the gaiety of the lower orders, when it is excited by the bounty and familiarity of those above them.

【註】 「何物かがある、.....のところがある」は英語の something に相當する。Genuine は「真卒」の意である。

4. 彼は云つた、「なる程汝は一少年に過ぎないが、然し又それ程な赤兒ではないと思つてゐた」。

- 1. なる程, it is true; 2. 過ぎない, are but; 3. 又, either.

【譯】 “It is true you are but a little boy,” he said, “but I thought you had not been such a child either.”

【註】 日本語でも「理解力の少ない者」を「小供」と云ふが英語でも同様に用ひられるに注意すべし； either の用法に合せて留意せよ。

5. 吾々は二に二を乗ずれば四だと云ふ事實は皆能く知つて居る；そして三の二倍が六と云ふことも同様に能く知つてゐる。

1. 皆能く知つてゐる, are all familiar; 2. 同様に能く知れてゐる, it is hardly less well known.

【譯】 We are all familiar with the fact that two times two are four; and it is hardly less well known that twice three make six.

【註】 「二に二を乗ずる」 two times two は動詞が is ならずして are とあるに、猶 twice three make six 即「三の二倍が六となる」と云ふ云ひ方を能く記憶すべし。

6. 四が二つでは明かに八になるが、十が五の二倍だ
two fours ことも同じく明瞭である。

the double of four 四が二つ, two fours; 2. 五の二倍, the double *two times two* of five.

twice ten 【譯】 While two fours obviously make eight, ten is as clearly the double of five.

【註】 Two fours 「二つの四」なる云ひ方に注意すべし、obviously は「考へる迄もなく一目瞭然と」の意である。

7. 吾人は猶次の事を発見する、六二つは總計十二となり、十四は七に二を乗じた結果で、そして十八は九を二つ一緒に加へると其數に達するといふことを。

1. 猶次の事を, further; 2. 總計十二, a total of twelve; 3. 七に二を乗ずる, multiplying seven by two; 4. 其數に達する, is reached.

【譯】 We discover further, that a pair of sixes make up a total of twelve, that fourteen is the result of multiplying seven by two, and that eighteen is reached by adding two nines together.

【註】 數の云ひ表はし方は中々既述の三譯例に盡きないが此位を記憶して置くと大分役に立つ; a pair of sixes は少し洒落た云ひ方である、「數に達する」が reach と譯し得るに注意すべし。

8. あなたの御話を聞くと人は眞の愛などといふものは無いと思ふでせう。

1. 眞の愛, real love; 2. 人は思ふでせう, one would think.

【譯】 To hear you talk one would think that there is no such thing as real love.

【註】 To hear you talk の如き Infinitive の句が定件或は假定の句と同様に用ひらるることあるを記憶すべし。「といふやうなそんなものは……ない」は no such thing as に相當する。

9. 彼は私に上衣を著せてくれに來た。彼は非常に濟まないといふ様子であつた、そして馬鹿にきまりが悪いといつた様子だつた。

1. 著せてくれた, to help me on; 2. 濟まない, apologetic; 3. きまりが悪い, ashamed of himself.

【譯】 He came to help me on with my coat. He looked extremely apologetic, and very much ashamed of himself.

【註】 Help me on 及前置詞の with に注意すべし。「きまりが悪い」又「はにかむ」の意には feel shy と譯すが「云つたこと」又は「行爲」に對しては ashamed を用ひる。

10. 索引の無い書物は針の無い羅針函によく似てゐる、吾人の到達せんと欲する點の指針とならずして却て吾人を惑はしめる。

1. 羅針函, a compass-box; 2. 指針とならずして, instead of directive to.

【譯】 A book without an index is much like a compass-box without the needle, perplexing instead of directive to the point we would reach.

【註】 Perplexing 以下の participial construction に注意すべし。

11. 大なる器量を有する人ならば勤勉にて之を發達せしめ得られる; 中位の技倆の人であるなら勤勉にて其欠を補ふことが出来る。

1. 勤勉, industry; 2. 發達せしめる, to improve, 3. 中位の技倆, moderate abilities.

【譯】 If you have great talents, industry will improve them; if you have but moderate abilities, industry will supply their deficiency.

【註】 「器量人」といふ日本語は a man of talent と云ふに相當する, talents は「器量」の意である。日本語なれば「勤勉によりて」と云ふべきを英語にては industry を主格に用ゐたるに留意すべし。

12. 十分間著實に仕事をした後、私はペンを投出して、椅子に凭りかゝつた、そして巻煙草に火を點けた。

1. 椅子に凭りかゝつた, leant back in my chair; 2. 火を點けた, lit.

After ten minutes' steady work, I threw down the pen, leant back in my chair, and lit a cigarette.

【註】 Ten minutes' steady work と「十分間著實に仕事した」とを比較研究すべし日本語の形のまゝに英譯しても差支へなけれど work を名詞にした形の方がよい。句を三つ並べる時も、語を三つ並べる時と comma の用ひ方の同じなるに注意すべし。

13. 彼女は最も人目を惹く女をも悪かれと思はない、そして最も醜い男にも微笑を見せる。

1. 人目を惹く, attractive; 2. 悪かれと思はない, thinks no evil of; 3. 微笑を見せる, has a smile.

【譯】 She thinks no evil of the most attractive of women, and has a smile for the most unattractive of men.

【註】 Has a smile for と has を用ひたるに注意せよ。Unattractive は「目立たぬ」の意であるが之は惋惜に云ひたるにて「醜い」の意になるのである。

14. 嫉妬は、兎に角、愛の結果の一である; 好く好かないは諸君の勝手であるが; 然しそれはちやんと存在してゐる。

1. 好く好かない, you may like it, or not; 2. 勝手である, at pleasure.

【譯】 Jealousy, at any rate, is one of the consequences of love; you may like it, or not, at pleasure; but there it is.

【註】 At pleasure は it is at your pleasure 即ち「諸君の御隨意である」を縮約した形である; but there it is は

「諸君の好不好に係らず存在してゐる」の意に用ひたのである。Comma 及 semicolon の用法に一々注意を要する。

15. 絶対の正義は達得することのできぬものであるが、實際上に必要な丈の正義は之を目的とする人々には得られるのである。

- 1. 達得することの出来ぬ, unattainable; 2. 実際上に, for all practical use; 3. 必要な丈の, as much as we need.

【譯】 Though absolute justice is unattainable, as much justice as we need for all practical use is attainable by all those who make it their aim.

【註】 此英文に於て though.....unattainable を第二文と入れ代はらしむると甚拙になるに注意すべし as much justice as we need を主格とせる文は稍冗長であるから此場合第二に置かねばならぬ、但し「絶対の正義...」に對して其「達得し得ぬ」理由でも説明する場合には必しも此順を逐ふとは限られなくなる。

16. 私は此世の中を唯一度だけ廻ることと思つてゐる。であるから私が同朋に對して出来る善い事又は親切は何でも今したいと思ふ。

- 1. 廻ることと思つてゐる, expect to pass through;
- 2. 同朋に, to any fellow creature; 今したいと思ふ, let me do it now.

【譯】 I expect to pass through this world but once. Any good therefore that I can do, or any kindness that I can show to any fellow creature, let me do it now.

【註】 Expect は日本語の「期待する」意の「思ふ」に相當する。Therefore の位置に注意すべし, kindness に對し show といひなるも注意すべし。

17. 接吻の音は大砲の音程に強くはないが、餘韻はもつと長く續く。

- 1. 程に強くない, not so loud as; 2. 餘韻, echo;
- 3. もつと長く, a deal longer.

【譯】 The sound of a kiss is not so loud as that of a cannon, but its echo lasts a deal longer.

【註】 云ふ迄もないが not as..... は甚だ稀で普通 not のある時は so.....as とする。

18. 吾人は若い時に智慧の樹を植えないと、年老いてから其蔭に隠れることが出来ない。

- 1. 智慧の樹, the tree of knowledge; 2. 蔭に隠れることが出来ない, give us no shade.

【譯】 If we do not plant the tree of knowledge when young, it will give us no shade when we grow old.

【註】 When young は when we are young の we are を略した形である, it will give us no shade と云ふに注意する、日本語では滅多に此の如き場合に植物を主格にすることはない。

19. なま物知りが危険なら、危険でない程の物知りが那邊にあらうか。

- 1. なま物知り, a little knowledge; 2. 危険でない程, so much as to be out of danger.

【譯】 If a little knowledge is dangerous, where is the

man who has so much as to be out of danger?

【註】「なま物知り」は日本語では「人」であるが英譯する場合は a little knowledge でよい。俗諺の「生兵法大傷の本」を A little knowledge is a dangerous thing. と譯すが之は相對せしめるにはよいが必しも適譯とは云はれない、概して日本の格言若しくは俗諺が西洋のそれと全然一致するといふことは稀であるから注意せねばならぬ。

20. 成文律は蜘蛛の巣のやうで、貧者弱者のみを絡らめて捕へる、富者強者は容易に之を破つて通る。

1. 成文律, written laws; 2. 絡らめて捕へる, entangle and hold; 3. 破つて通る, break through.

【譯】 Written laws are like spiders' webs, and will like them only entangle and hold the poor and weak, while the rich and powerful will easily break through them.

【註】 Like them は spiders' webs を受けたるに注意せよ、日本文では此の如き場合に「彼等の如く」と繰返へすことは稀であるが英譯の時は之を入れた方がよい。only の位置に留意すべし。

21. 悪い人間がなかつたら、能い法律家はあるまい。

1. 悪い人間, bad people; 2. 能い法律家, good lawyers.

【譯】 If there were no bad people, there would be no good lawyers.

【註】 Were は既に述べた如く「あり得べからざる事」の假定を表はす爲である。Good は bad に對して用ひ

たので「敏腕な」ぐらいの意味である。

22. 書簡と云ひ詩と云ひ明白に同じ心の作用である、只個人の理解力に適應せしむると集團的のそれに適應せしむるとの差だけである。

1. 明白に, obviously; 2. 適應せしむると, in the application to; 3. 集團を, collective.

【譯】 Letters and poems are obviously an act of the same mind, only differing in the application to the individual or collective understanding.

【註】 日本語では繰返へさないと言義の明瞭を缺く場合でも英語では繰返へさぬ方がよい事が屢々ある、又之と反對の場合も少なくない、之は各國語の習慣によつて然るのであるが外國語に通曉するには其語の習慣を知ることが最も肝要であるから恒に注意を怠つてはならぬ即ち上の譯文中 application, understanding を繰返さざるに注意せよ。

23. 氣がひどく塞いだ時の一番良い興奮劑は戀人の手紙を繰返へして讀むことだ。愛人オモシロサ何?

1. 氣, the spirits; 2. 塞ぐ, sink low; 3. 興奮劑, the cordial.

【譯】 When the spirits sink too low, the best cordial is to read over all the letters from one's mistress.

【註】 Spirit, mind, heart を混用せぬやうに spirit は「氣力」mind は「智心」heart は「情心」である。

24. 人は如何なる道を探るかは知らぬが、私には自由ならざれば死を與へよ。

1. 如何なる道, what course; 2. 私には, as for me;
3. ならざれば, or.

【譯】 I know not what course others may take; but as for me, give me liberty or give me death!

【註】「方針」と云ふ場合の「道」は course である; or が if not と同意に用ひらるるに注意すべし.

25. 人として到達し得らるる極致は現在の危険或は利害に頓着なく恒に斷乎として徳を行ふことである.

1. 極致, the utmost excellence; 2. 頓着なく, without regard to;
3. 徳を行ふこと, pursuit of virtue.

【譯】 The utmost excellence at which a man can arrive is a constant and determinate pursuit of virtue, without regard to present dangers or advantage.

【註】 A constant and determinate pursuit of virtue と之に對する日本語とを比較研究する必要がある. Without regard to は disregarding と云つても同じである. 「利害」は advantage 丈でよい.

26. 昔七人の小供——皆男子——を持つてゐる樵人夫婦があつた。長子は僅かに十歳で末子は七歳であつた.

1. 樵人夫婦, a woodcutter and his wife.

【譯】 Once upon a time there was a woodcutter and his wife who had seven children—all boys; the oldest was only ten and the youngest seven.

【註】 Dash の用法に注意すべし; the oldest は the eldest son としてもよい, ten は勿論 ten years of age といへる. Semicolon を comma にして was を being に

することも出来る.

27. 非常に貧乏であつたので七人の小供が非常に邪魔になつた, 七人の中一人でもまだ獨りで稼いで食へるのが無かつたから.

1. 邪魔になつた, inconvenienced them; 2. 獨りで稼いで食へる, able to gain his livelihood.

【譯】 They were very poor, and their seven children inconvenienced them much, because none of them was yet able to gain his livelihood.

【註】 Inconvenienced them much は fell heavy upon their shoulders としても同意になる, his livelihood と his を置くを忘れぬやうに注意せよ.

28. その中にも末子が病身で少しも物を言はなかつたのを, 心の良質の標であるのに馬鹿なのだと思違へて, 一入面白くなく思つてゐた.

1. 病身で, very delicate; 2. 心の良質, the good quality of his mind; 3. 思違へて, taking for.

【譯】 What vexed them still more is that the youngest was very delicate and did not say a word; taking for stupidity what was a mark of the good quality of his mind.

【註】 What vexed... 「彼等が其中にも一入面白くなかつたのは」を主文にしたるに注意すべし, 尤日本文通りに譯して行くことも差支へはないが前文との關係上文章がだれるから此形を用ひたのである.

29. 彼は馬鹿に小さかつた, そして生れた時やつと拇

指位しかなかつたので夫婦は彼を「チビ」と呼んだ。

- 1. やつと拇指位, scarcely bigger than a thumb; 2. 「チビ」 Hop-o'-my-Thumb.

【譯】 He was very little, and when he was born he was scarcely bigger than the thumb, which made them call him Hop-o'-my-Thumb.

【註】 He was born は he came to this world としてもよい; made them call him を gave him the name of と云ふことも出来る。

30. 此可憐な小兒は家内中の者にコキ使はれて、始終虐待(イヂ)められてゐた。

- 1. 家内中の者にコキ使はれて, was the drudge of the house; 2. 虐待められてゐた was put in the wrong.

【譯】 This poor child was the drudge of the house, and was always put in the wrong.

【註】 The drudge は「くだらぬ事をあくせくやる者」の意で茲で「コキ使はれる者」と用ひたのである日本文では動詞になつてゐるが英文では名詞形にした方がよい。Put in the wrong は一語にすると maltreat となる。

31. 然し彼は兄弟中で一番利口でそして一番慎しみ深かつた; 物は云はなかつたが人の言は一生懸命に聞いた。

- 1. 一番利口, the sharpest-witted; 2. 慎しみ深い, prudent; 3. 一生懸命聞いた, listened much.

【譯】 Yet he was the sharpest-witted and the most

prudent of all the brothers; and if he spoke little he listened much.

【註】 茲では yet の方が but よりよい; if の用法に最注意すべし although を用ひても同じのやうだが if の方が此様な場合には次の文を強める力が多いのである。

32. 非常な凶年なことがあつた時、飢饉が餘りに激しかつたので哀れな夫婦は自分の小供を何とか始末してしまはうと決心をした。

- 1. 凶年, a bad year; 2. 飢饉, the famine; 3. 何とか始末をしてすまう, to rid themselves of.

【譯】 There came a very bad year, and the famine was so severe that those poor people resolved to rid themselves of their children.

【註】 To rid oneself of は「厄介物を逐拂ふ又は片付ける」と云ふ場合に用ひる句で to get rid of と云ふ: to rid the house of rats; to get rid of that troublesome fellow など此例である。

33. 或夜小兒等は皆床に這入つてしまつて、樵人と其妻とが爐傍にゐた時、樵人は妻に、心から悲しみ堪え得ずして云つた。

- 1. 爐傍にゐた, was at the fireside; 2. 心から悲しみに堪え得ず, with his heart crushed with grief.

【譯】 One evening when the children were in bed and the woodcutter was at the fireside with his wife, he said to her, with his heart crushed with grief.

【註】 「或晩には或日……した時」を譯すに one evening

when 又は one day when となすべく when one evening の如き順に排列すべからず, with his heart の with は「ながら」の意で ing の動詞形と同じ働きをしてゐるのである。

34. 小供等を最早養つてゐられないのは御前にもよく分つてゐる。私は目の前に彼等の飢死するのを見てはゐられない、だから彼等を森の中に連れて行つて迷兒にしてしまはうと決心をした。

1. 御前にもよく分つてゐる, you see quite well;
2. 目の前に, before my eyes;
3. 森の中へ連れて行つて迷兒にする, to take and lose them in the wood.

【譯】 “You see quite well that we can no longer feed them. I cannot see them die of hunger before my eyes, so I have made up my mind to take and lose them in the wood.

【註】 Feed は「食はして養つて置く」の意で普通「養育する」といふ時は to bring up を用ひる。before my eyes は before my very eyes としてもよい何れも「見殺しにする」の意である。

35. それは譯も無い事だ、彼等が樹枝を拾つて遊んで居る間に見られないやうに行つて終ひさへすればよいのだから。

1. 樹枝を拾つて, with gathering sticks;
2. 遊んで居る間に, whilst they are amused;
3. 見られないやうに, without their seeing us;
4. さへすればよい, have only to.

【譯】 It will be very easy, for, whilst they are amused with gathering sticks, we have only to make off without their seeing us.

【註】 Whilst は while と同じだが whilst の方が古風の云ひ方である, to make off は「行つて終ふ」の意で set off といふに稍同じであるが make off は「早く立去る」の意である。

36. 「まあ!」と妻は云つた、「あなたは自分で小兒等を迷兒にしてまうことが出来るのですか」

1. まあ, ah!
2. 迷兒にしてまう, cause to lose their way.

【譯】 “Ah!” cried his wife, “could you yourself cause your children to lose their way?”

【註】 Could you と could を用ひたるに注意すべし茲では「そんなことが出来るのでせうか」の意に用ひたのである。

37. 夫は妻に自分等の赤貧であることをよく云つて聞かせたが何にもならない、妻は夫の云ふ言に承知が出来なかつた; 貧乏ではあるが彼女は彼等の母親であつたのだ。

1. 赤貧であることを, their great poverty;
2. 云つて聞かせる, to represent;
3. 承知が出来なかつた, could not consent to it.

【譯】 It was in vain that her husband represented to her their great poverty, she could not consent it; she was poor but she was their mother.

【註】 Represent は「例を擧げて説明する」と云ふ意味の場合に用ひるのである； she was poorは間接話法の一つで she said that を略した形と思へばよいので日本文には元來此様な説話法はないのである。

38. 然しながら、彼等の餓死するのを見てゐるのはどんな苦痛だろうと考へたので彼女は遂に承知をしてそして泣きながら床に這入つた。

1. 然しながら, however; 2. どんな苦痛だろう, what pain it would be; 3. 考へて, having considered.

【譯】 However, having considered what a pain it would be for her to see them die of hunger, she consented and went to bed weeping.

【註】 同じく「然しながら」ではあるが however は「ではあるけれど」と前の事を「徐ろに考へる」やうな場合に用ひるのである。

39. 末の子供は彼等の云ふてた事を残らず聞いた、どうしてかと云ふに彼は床の中から二人が大切な事を相談してゐるのを聞いたので、彼女は静に起上つて見られないで聞こへるやうに父の腰掛の下に滑込んでしまつたのである。

1. 大切な事を相談してゐるのを, that they were talking business; 2. 見られないで, without being seen; 3. 滑込んだ, slipped under.

【譯】 The youngest child heard all that they said, for having heard from his bed that they were talking business, he had risen quietly and slipped under his

father's stool to listen to them without being seen.

【註】 For 以下の文は兩親の相談を聞く前の季子の動作であるから大過去を用ゐたのである。Talking business は talking of some important affairs の意で business は英語では seriously の意に用ひられることが往々ある：—

He meant business. = he was in earnest.

40. 彼は寢床に歸へつたが、如何しなければならぬかと考へてゐたので、其後は少しも眠らなかつた。

1. 如何しなければならぬか, of what he must do; 2. 其後は, for the rest of the night.

【譯】 He went back to bed and did not sleep for the rest of the night, thinking of what he must do.

【註】 「それから後は」は英語の for the rest of に相當する。Did not sleep は did not get a wink of sleep としてもよい。

41. 彼は早く起きて小川の岸へ行つて白い小石を一杯「ポケット」に入れて、それから家へ歸つて來た。其朝夫婦の者は皆小供を伴れて森へと急いだ。

1. 白い小石, little white stones; 2. 一杯入れて, filled; 3. 森へと急いだ, set out for the forest.

【譯】 He got up early and went to the bank of a stream where he filled his pockets with little white stones, and then returned to the house. In the morning they set out for the forest taking all the children with them.

【註】 Little white stones に於ける形容詞の順序を記

憶すべし white little の順にすべからず; went to the bank は walked down to the bank としてもよい。

42. 其森は恐ろしい深い森であつた、たつた十歩距たると互に見へなくなつてしまふ程の。

1. 十歩距たると, at a distance of ten paces.

【譯】 It was a very deep forest, where at a distance of ten paces they could not see each other.

【註】 Where の所を so deep that としてもよい又は It was such a deep forest that..... とする事も出来る。

43. 樵人は切々と木を伐り初めた、そして小供等は木の束を拵へる爲に樹枝を集めた。

1. 切々と木を伐り初めた, set himself to cut wood;

2. 木の束を拵へる爲に, in order to make faggots.

【譯】 The woodcutter set himself to cut wood, and the children to gather twigs in order to make faggots.

【註】 Set oneself to は「どしどし始める」の意に用ひる, the children の次に set themselves to が略されたるに注意すべし。

44. 両親は小供等が忙がしく仕事してゐるのを見て次第次第に彼等に遠ざかつて、そして急に側路から行つてしまつた。

1. 忙がしく仕事してゐる, busy at work; 2. 次第

次第に, gradually; 2. 遠ざかつて, moved away;

4. 側路から, by a by-path.

【譯】 The father and mother seeing them busy at work moved away from them gradually, and they made

off all at once by a by-path.

【註】 此の如き英文では the father and mother の次に comma を置いて at work の次に comma を置くこともあるが之は蛇足で、若し第一の句が clause であるから comma を要するが此の如く名詞文の場合には comma は置かぬ方がよい。

45. 小供等は獨りになつたのを知つた時に出来る限り叫び且泣き始めた。

1. 出来る限り, with all their might; 2. 叫び且泣く, to cry and weep.

【譯】 When the children saw themselves alone they began to cry and weep with all their might.

【註】 Saw themselves alone は saw that they were left alone と譯してもよい, with all their might は with might and main ともいふ。

46. 末の子は彼等を泣かして置いた、彼は如何なる路を行けば家に歸へざるかを知つてゐたのである、何故といふに彼は路を歩きながら「ポケット」に持つてゐた小さい白い石を路に沿うて落して置いたから。

1. 泣かして置いた, let them cry; 2. 如何なる路を行けば, by what way; 3. 路を歩みながら, while walking; 4. 路に沿うて, along the way.

【譯】 Hop-o'my-thumb let them cry knowing well by what way he would return to the house, for while walking he had let fall along the way the little white stones which he had in his pockets.

【註】 單獨な文章では左程問題にならないが此の如き連続した文章に於ては一文一文毎に其主格を注意して撰ばねばならぬ徒に同一主格を繰返へすことの愚なるは英文に於ても日本文と同様である、されば茲では末子の渾名の「チビ」即 Hop-o'-my-thumb を主格にしたのである。

47. それから彼は兄弟達に云つた:「恐はがるには及びませんよ; 御父さんと御母さんが僕等を此所へ置いて行つてしまつたけれど、僕がちゃんと皆を家へ連れていつてあげるから、さあついて來給へ。」

- 1. 此所へ置いて行つてしまつた, have left us here;
- 2. ちゃんと, all right.

【譯】 Then he said to them: "Don't be afraid brothers; our father and mother have left us here, but I will bring you back to the house all right. Just follow me."

【註】 Our father and mother の our は略しても差支ない。Bring you back は lead you としてもよい。

48. やつと自分等の家の前に再び來た時に彼等は敢てすぐ這入らうとはしないで、父や母が云ふてゐることを聞く爲に扉に凭り掛つてゐた。

- 1. 敢て這入らうとはしない, did not dare to enter;
- 2. 聞く爲に, to listen to; 3. 扉に凭れ掛つてゐた, stood against the door.

【譯】 When they found themselves again before their house, they did not dare to enter at once, but they all

stood against the door to listen to what their father and mother were saying.

【註】 They did not dare to enter は they instead of entering at once, stood としてもよい, listen to の to を落さぬやうに注意する。

49. 樵人と其妻が家に達すると同時に、村の領主が彼等に長い間借りてゐた十磅の彼等に送つた、そして其金は彼等が最早とても望みの無いものとしてゐたのであつた。

- 1. と同時に, at the moment when; 2. 村の領主, the lord of the village; 3. 彼等に借りてゐた, he had owed them.

【譯】 At the moment when the woodcutter and his wife got home, the lord of the village sent them ten pounds which he had owed them for a long time, and of which they had no longer any hope.

【註】 初めの at と when を略して書くことも出来るがそれは文章の調子をもつと鋭い場合でなければ用ひられぬ此様な平易な文調に用ひると今迄の調子と矛盾することになる、平易な文を綴る場合には那邊迄も平易で然も無駄なく流暢に綴るやう心掛けねばならぬ、難解な拮据な文を綴り得たとて決して上手と云はれないのである。And of which と文を續けて行く書き方に注意すべし。

50. 随分暫く物を食はずにゐたものだから彼等は二人の晩食に入用丈の肉の三倍も誂へた。

1. 暫く物を食はずにゐた, it was long since they had eaten; 2. 入用丈の肉の三倍, three times as much meat as was necessary.

【譯】 As it was long since they had eaten they ordered three times as much meat as was necessary for the supper of two persons.

【註】 As it was は as they had had nothing to eat for a long time とも云へるのだがそれでは茲で面白くないから此形を用ひたのである, 此の如き場合に since の次に來る句は常に Perfect Tense であることを記憶すべし.

EXERCISE I.

1. 十分食べてしまつた時に樵人の妻は云つた: 「ああ! どこに今頃は可愛そうな小供等は居るだろう? 彼等には此處に残つて居る物で好い御馳走になるのに.

1. 十分食べてしまつた時に, when they were satisfied; 2. 此處に残つてゐるもので, out of what remains here; 3. 彼等には好い御馳走になるのに, they would make good cheer.

2. 覚えていらしやい, 迷兒にしようと言つたのはあなたですよ. 後で後悔するに相違ないと私はよくあなたに御話ししましたわ. 今頃森の中に何をしゐるでせう? 此様に御自分の小供を失つてしまふとは随分あなたも非道い人ですね。」

1. 迷兒にしようと言つたは, wanted to lose them; 2. あなたですよ, it is you who.....; 3. 後で後悔するに相違ないと, that we would repent of it; 4. 此様に自分の小供を失つてしまふは, to have thus lost your children.

3. 後悔するに相違ない, 私がそう云つたではないかと彼女が二十四以上を繰返へしたのだから樵人はとうとう腹を立つてしまつた.

1. 樵人は...を最初に英譯すべし即ち:— The wood-cutter lost his temper at last; for.... 2. 後悔するに相違ない, that they would repent of it; 3. 私がそう云つたではないか, that she said so. (日本文は直接話法だが英譯するには茲に間接話法にする.)

4. 彼は黙まらないと撲るぞと威かした. 妻君は「今頃はどこに小供等は居るだらうと可愛そうに」とわ-わ-泣いてゐた.

1. 黙まらないと, if she did not hold her tongue; 2. 可愛そうに, poor children! 3. わ-わ-泣いてゐた, was all in tears.

5. 彼女は之を一度大變大きな聲で云つたものだから, 扉の側に居た小供等が之を聞き付けて「茲にゐるよ; 茲に皆ゐるよ!」と皆一緒に叫び始めた.

1. 大變大きな聲で云つたものだから, said so loud that; 2. 之を聞き付けて, having heard it; 3. 茲にゐるよ, here we are; 4. 皆一緒に, all together.

6. 彼女は早速扉を開けてやりに走つて行つた, そして

接吻しながら彼等に云つた:「よくまあ皆無事でゐてくれたねえ!」

- 1. 扉を開けてやりに, to open the door to them;
- 2. 接吻しながら, while kissing them;
- 3. 「よくまあ皆……」, how glad I am to see you safe again, my dear children

7. 彼等は皆食卓に就てそして父と母とが面白く思つた程甘まそうに食べた.

- 1. 食卓に就て, sat down at table;
- 2. 面白く思つた, gave pleasure;
- 3. 甘そうに, with an appetite.

8. 食べながら彼等は、殆ど異口同音に、森の中で恐ろしかつた事を物語つた.

- 1. 殆ど異口同音に, speaking almost all at once;
- 2. 森の中で恐ろしかるたことを, the fright they had had in the forest.

9. 此氣の善い夫婦は再び小供等と一緒に暮せるのを非常に喜んだ、そして此喜びは金の有る間續いてゐた.

- 1. 此氣の善い夫婦, these good people;
- 2. 小供と一緒に暮せるのを, to see their children with them again;
- 3. 非常に喜んだ, delighted;
- 4. 此喜び, this joy;
- 5. 金の有る間, as long as the money lasted.

10. 然し金を使つてしまふと共にまた以前の困難に陥つた、そして再び彼等を捨ててしまはうと決心した.

- 1. また此前の困難に陥つた, fell back to their former trouble;
- 2. 決心した, resolved.

11. 此度は爲損じない爲に初めの時より遙かに遠くへ連れて行くことにした.

- 1. 爲損じない爲に, in order not to fail in their purpose;
- 2. 初めの時より, from the first time;
- 3. 遙かに遠くに, much farther away.

12. 彼等は此相談を秘密にはやつたが末子に聞かれぬわけにはゆかなかつた.

- 1. 此文章を譯すには could not speak of this..... but that..... の形を應用すべし.

13. 以前やつた通り小石を集める爲朝早く起きたが、目的が達せられぬかつた.

- 1. 以前やつた通り, as he had already done;
- 2. 目的が達せられぬかつた, could not manage his point.

14. 家の扉に二重に鍵が掛つてゐたので彼は如何すればよいか分からなかつた.

- 1. 二重に鍵が掛つて, double locked;
- 2. ゐた he found;
- 3. 如何すればよいか, what to do.

15. 樵人の妻が名々に朝食として麵麩を一片づつ與へた時に彼は通る路に粉にして之を蒔けば石の代用に出来ると思つて.

- 1. 食朝として, for breakfast;
- 2. 通る路に, along the ways they would pass;
- 3. 粉にして蒔けば, by casting it in crumbs;
- 4. 石の代用に, in place of stones.

16. 夫婦は彼等を森の最深くて暗い所へ連れ行つた、そして彼等が其所に居る間に側路に這入つて彼等を置去

りにしてしまつた。

- 1. 最深くて暗い所, the thickest and darkest part;
- 2. 側路に這入つて, gained a by-way; 3. 置去りにして, left.

17. 末子は、通つた所へ盡く蒔いた麴に依つて、容易に來た路を辿れると思つてゐたので別段心配しなかつた。

- 1; 通つた所へ盡く蒔いた, he had scattered everywhere that he passed;
- 2. 依つて, by means of;
- 3. 別段心配しなかつた, did not trouble himself much about it.

18. ところが一粒も見出すことが出来なかつたので彼は非常に喫驚した; 鳥が來て皆食つてしまつたのだ。

- 1. 一粒も, not a single crumb;
- 2. 鳥が來て, the birds had come.

19. そこで彼等は非常に困つてしまつた; 行けば行く程途に迷つてそして深く深く森の中へ這入つてしまつた。

- 1. そこで彼等は, there they were then;
- 2. 困つてしまつた, distressed;
- 3. 途に迷つて, went astray;
- 4. 深く深く這入つてしまつた, buried themselves.

20. 日は暮れてしまつた, 大風が吹き出した, 怖さ恐ろしさは増すばかりであつた。

- 1. 吹き出した, there arose;
- 2. 怖さ恐ろしさ, frightful terrors.

21. 彼等を咬みに近寄つて來る狼の咆聲より外にあた

りに聞へるものは無いやうに思はれた。

- 1. 狼の咆聲, the howling of wolves;
- 2. あたりに, on all sides;
- 3. 無いやうに思はれた, they thought they heard nothing but.

22. 大雨が降つて來た, 彼等は骨迄も濡れてしまつた; 一步步いては滑つて泥のなかに倒れた。

- 1. 降つて來た, there came on;
- 2. 骨迄も, to the bone;
- 3. 一步步いては, at each step;
- 4. 泥のなかに, in the mud.

23. 手も何もかも始末の付かぬ程泥だらけだ。

- 1. 手も何もかも始末の付かぬ, not knowing what to do with their hands;
- 2. 泥だらけ, all over dirty.

24. やつと彼等は森の遙か彼方に微かな光を見出したがやがてまた思へなくなつてしまつた。

- 1. 遙か彼方に, far beyond;
- 2. 微かな光, a faint light;
- 3. 見へなくなつてしまつた, lost sight of it.

25. ではあつたが暫く光の見へる方向へ歩いてゐたら彼等は再び之を認めた, 此度は近い所に, そして間もなく彼等は綺麗な田舎家の前に出た。

- 1. 暫く, for some time;
- 2. 光の見へた方向へ, in the direction in which they had seen the light;
- 3. 綺麗な田舎家, a neat cottage;
- 4. 前へ出た, they found themselves before.

51. 彼等の議論は非常なる高所に在るが故に光の現はれざる星に譬へつべし。

- 1. 議論, discourses; 2. 光の現はれざる, give little light; 3. 譬へつべし, are as.

【譯】 Their discourses are as stars, which give little light, because they are so high.

【註】 學問上などの「議論」は discourse と譯し、「爭論」に類するものは dispute と譯す; 光, 光澤などの「有る」は give と英譯し得るに注意すべし。

52. 人間は逆説の體現したるもので、矛盾の凝まりだ。

- 1. 逆説, a paradox; 2. 體現したる, embodied; 3. 矛盾, contradictions.

【譯】 Man is an embodied paradox, a bundle of contradictions.

【註】 Embodied を形容詞に用ひたるに注意すべし、此用法によらざれば此く簡潔に書くことは出来ない。

53. 人間の肉體は正しき魂の宿なるが故のみならず不滅の魂の宿であるが故に吾人は之を尊敬する。

- 1. 肉體, the corporeal frame; 2. 宿, the habitation; 3. なるが故のみならず, not merely because it is... ..., but.....

【譯】 We respect the corporeal frame of man, not merely because it is the habitation of a rational, but of an immortal soul.

【註】 Habitation も soul も繰返へす必要なきと又各

語の位置に注意すべし。

54. 女は皆結婚すべきものだが男は決してせぬがよいものと常に考へてゐる。

- 1. 男は決してせぬがよい, and no man; 2. 常に考へてゐる, I have always thought.

【譯】 I have always thought that every woman should marry, and no man.

【註】 此場合に always を用ひると tense は perfect にする必要あるに注意する; and no man と丈にて should marry は略し得るのである。

55. 子猫は大きな猫にならぬものとも思ふのか、年の若いの、面白さに惚れ込んで若い娘を選んで結婚する馬鹿が澤山ある。

- 1. 年の若いの、面白さに, by the playfulness of youth; 2. 若い娘を選んで結婚する, picks out a young girl to marry with.

【譯】 There are many a fool in the world who picks out a young girl to marry with, captivated only by the playfulness of youth, as if a kitten were never to be a cat.

【註】 As if a kitten..... の普通の日本語と反對な云ひ方なるに注意すべし「赤子だつて三年経てば三つになる」なども as if.....never to be の形で譯すのが一番よいのである。

56. 人の生涯のあらゆる行爲の中で結婚位他人に無關係な事はないのに、此位他人が五月蠅さく世話を焼く

ことはない。

- 1. あらゆる行爲, all actions; 2. 五月蠅く世話を焼く, to meddle with.

【譯】 Of all actions of a man's life, his marriage does least concern other people, yet of all actions of our life, 'tis most meddled with by other people.

【註】 Does least concern に於ける least の位置及それが常に打消しの意を含めるに注意すべし; yet of all actions..... は日本文では繰返さずにも済むが此場合英語では繰返へさぬと調子が悪い。

57. 「ソクラテス」は結婚した方がよいかしない方がよいかと質ねられた時何れにしても後で後悔すると答へた。

- 1. 質ねられた時, when asked; 2. 何れにしても, whichever you do.

【譯】 Socrates, when asked whether it was better to marry or not to marry, answered: "Whichever you do you will repent."

【註】 「.....したもののかしないものか」又「.....した方がよいかしない方がよいか」は重に whether it is better to.....or not to..... の形に譯すがよい。

58. 一日たつぷり歩いた後で一服喫ふ時程煙草の甘いことは無い。

- 1. 一日たつぷり歩いた後で, follow a good day's march; 2. 煙草の甘いことはない, no such pipes to be smoked.

【譯】 There are no such pipes to be smoked as those that follow a good day's march.

【註】 To follow は「結果として生ずる」と云ふ意を表はす時に往々用ひられる「一日働いた後の熟睡」the sound sleep that follows a good day's work. など。

59. 倫敦や紐育は人間の没常識な部分を抜去る所だと云はれてる。

- 1. 没常識な部分, the nonsense; 2. 抜去る, to take out.

【譯】 'Tis said, London and New York take the nonsense out of a man.

【註】 London and New York が此場合主格に用ひられるに注意すべし; 「人間の灰汁を抜く」と云ふ俗語をも take the nonsense out of a man と譯せる。

60. 誰かの言に王は貴族と成れるが紳士には成れないとあります。

- 1. 誰かの言に, somebody has said; 2. 造れるが, may make.

【譯】 Somebody has said that a king may make a nobleman, but he cannot make a gentleman.

【註】 經驗を表はす場合には perfect tense を用ひることが多い has said もそれである即「見たこと又は聞いたことがある」の意を含有してゐるのである。

61. 臆病で躊躇し勝ちの人間には凡ての事が不可能に見へるが故に、不可能である。

- 1. 臆病で躊躇し勝ちの人間, to the timid and

hesitating; 2. 不可能に見へるが故に, because it seems so.

【譯】 To the timid and hesitating everything is impossible because it seems so.

【註】 The rich and the poor などの如く總括して云ふ時英語では定冠詞と形容詞丈で名詞を用ひない the timid and hesitating も此例である。

62. 其日其日が一年中の一番良い日であることを心に銘せよ。其日其日が世界の末日であると云ふことを知らぬ限り人は何事も正しく知り得たのでない。

- 1. 其日其日, every day; 2. 心に銘せよ, write it on your heart; 3. 世界の末日 Doomsday; 4. 知らぬ限り, until he knows.

【譯】 Write it on your heart that every day is the best day in the year. No man has learned anything rightly until he knows that every day is Doomsday.

【註】 日本語の「知らぬ限り」又は「……せぬ限り」など云ふ場合英語では until 又は till. . . . と譯すことが多い、換言すれば是等の日本語を譯す場合には「……する迄は……せぬ」の形に英譯するのがよいのである。

63. 一千磅から一文でも取去れば最早一千磅ではない。

- 1. 一文, a farthing; 2. 取去る, take.

【譯】 If we take a farthing from a thousand pounds, it will be a thousand pounds no longer.

【註】 A farthing は a red cent などとも云はれる。此

句は Goldsmith の the "Citizen of the world" 中にあるのだが簡にして要を得て居る所が面白いので此處に逆用したのである。

64. 食べ過ぎといふことの中には食事といふことが無くはならん、飲み過ぎといふことの中には飲むといふことが無ければならぬ; 非難すべきのは食ふことでもなければ飲むことでもない、過度といふことであるのだ。

- 1. 食べ過ぎるといふこと, gluttony; 2. 飲み過ぎ, drunkenness; 3. 過度といふこと, the excess.

【譯】 In gluttony there must be eating, in drunkenness there must be drinking; 'tis not the eating, nor 'tis ~~not~~ the drinking that is to ^{be} blamed, but the excess.

【註】 'Tis not, nor 'tis (not) 此形は次の not は無くともよいのであるが此の如き俗調には此く打消を重ねて用ゐることが往々ある。But は「……にあらずして… ..である」と云ふ際「……not, but」と用ひるのである。

65. 此世に地獄があるのならそれは幽鬱な人の心の中に在る筈である。

- 1. 地獄があるのなら, If there be a hell; 2. 在る筈である, it is to be found.

【譯】 If there be a hell upon earth it is to be found in a melancholy man's heart.

【註】 「……にある筈だ」又「……に行けばある」は英語の it is to be found に相當するを記憶すべし。

66. 地球上には人間以外に偉大なるものなし; 人間に於ては心以外に偉大なるものなし.

1. 以外に, but; 2. 人間に於ては, in man.

【譯】 On earth there is nothing great but man; in man there is nothing great but mind.

【註】 Semicolon の用法が非常に明かに表はれてゐる此 semicolon を comma にすれば and を入れるがよい; mind は既に云へる如く知識の「心」である. 此句は「エヂンバラ」大學哲學教室壁上の題字である.

67. 如何なる種類の窮苦も不義の原因にはあらずして却つて其結果である.

1. 窮苦, misery; 2. 不義, immorality; 3. 其結果, the effect thereof.

【譯】 Misery of any kind is not the cause of immorality, but the effect thereof.

【註】 Cause を italic にして強めたので次の句の接續詞 but 迄が一層強くなつて「……にあらずして却つて」なる語氣が表はれるのである.

68. 智は成功によつてよりも失敗より得ることの方が遙に多い, そして誤をしたことのない人間は発見をしたことのない人間である.

1. 智, wisdom; 2. 得る, to learn; 3. 誤をしたことのない人, he who never made a mistake.

【譯】 We learn wisdom from failure much more than from success; and he who never made a mistake never made a discovery.

【註】 Learn wisdom は「智性が開發される」の意である: wisdom と knowledge とを混同して用ひてはいけない knowledge は重に「學識」 wisdom は「智性」又「悟り」である.

69. 最美しく彩色されたる繪畫と雖自然の眞の美に較べる時は色褪せたる力弱き物に過ぎぬ.

1. 最美しく彩色されたる繪畫, the best coloured pictures; 2. 眞の美, true splendour.

【譯】 The best coloured pictures are but faint and feeble compared with the true splendour of nature.

【註】 To compare の支配する前置詞には with と to とあるが with は「比較する」場合 to は「譬へる」場合に用ひるのであるから混同せぬやうに.

70. 必要といふことは人間の自由を侵害する毎の言譯である. それは壓制者の論據で; 隷屬者の信條である.

1. 人間の自由, human freedom; 2. 侵害, infringement; 3. 論據, the argument.

【譯】 Necessity is the plea for every infringement of human freedom. It is the argument of tyrants; it is the creed of slaves.

【註】 「辯言」は「plea」に相當する, 「法律, 規約又は自由」等の「侵害」は infringement と英譯する.

71. 凡ての生物及物質の權威と光榮とは其従順なることに存してゐるので, 其自由なるに存してゐるのではない.

1. 生物, creatures; 2. 物質, matter; 3. 權威と光

榮, power and glory; 4. 存してゐる, consist in.

【譯】 The power and glory of all creatures, and all matter, consist in their obedience, not in their freedom.

【註】 「……にあり, ……に存す, ……することにより」等の日本の idiom は consist in で譯すがよい:— Happiness consists in trying to do one's duty.

72. 海より外に何物も見ざるが故に陸無しと思ふ者は拙劣なる発見者である。

1. 海より外に何物も, nothing but sea; 2. 拙劣なる発見者, ill discoverers.

【譯】 They are ill discoverers that think there is no land, when they can see nothing but sea.

【註】 Ill は unskilful の意に用ひたのである, when の用法に注意すべし。

73. 一の風景と他の風景との差異は小であるが, 之を見る人々の間には大差がある。

1. 一の風景と他の風景との, between landscape and landscape; 2. 見る人々の間には, between the beholders.

【譯】 The difference between landscape and landscape is small, but there is great difference between the beholders.

【註】 Between landscape and landscape なる云ひ方に注意すべし「人と人との間には」 between man and man も同じ云ひ方である。

74. 問題の両面を見る人は絶対に何も見ぬ人である。

1. 問題の両面, both sides of a question; 2. 絶対に何も, absolutely nothing at all.

【譯】 The man who sees both sides of a question is a man who sees—absolutely nothing at all.

【註】 此文は He を主格にして He is a man who sees—, that sees both sides…… の形にも云へるが普通上の形式の方がよいのである。

75. 君の手の繩は, 其端に石を結べば, 井の底に達する程に長い。

1. 其端に, to the end of it; 2. 井の底, the bottom of the well.

【譯】 The rope in your hand is so long, that it will touch the bottom of the well, if a stone is tied to the end of it.

【註】 Touch は原文に従つて reach としてもよい if 以下の句は that, if..., it will... の形にすることも出来る。

76. 合圖があると直ぐに, 皆歡聲を上げて心から貴賓を歓迎した。

1. 皆歡聲を上げて, every one raised a shout; 2. 貴賓, the noble visitor; 3. 心から歓迎した, gave a hearty welcome.

【譯】 As soon as the signal was given, every one raised a shout, and gave a hearty welcome to the noble visitor.

【註】 「合圖をする」の「する」は give と譯し「御迎へする」の「ふる」も give と譯し得る。Every one 以下は次の

如くでもよい: they, by raising a glad shout, showed their hearty welcoming of.....

77. 一人と云ふ小數たることを恐るる勿れ; 大多數の者は多くは間違つて居る.

- 1. 一人といふ, of one; 2. 勿れ, never; 3. 多くは, mostly.

【譯】 Never be afraid to be in a minority of one; majorities are mostly wrong.

【註】 A minority of one といふに注意せよ; 「.....する勿れ」は常に Never を以て初めるがよい; wrong は in the wrong とも云へる.

X 78. 殆ど他人の注意を惹くことなしに人が倫敦で一生送れるのはどうも不思議だ.

- 1. 注意を惹くこと, notice; 2. 一生を送れる, may live and die.

【譯】 'Tis strange with how little notice a man may live and die in London.

【註】 With how little notice は「如何にも少しより外人の注目する所とならずして」の意で上の「殆ど.....なしに」と云ふに相當する, 特に with how と云ふに注意すべし.

79. 彼は如何なる人の胸にも同情を喚起することなく; 彼の生存は彼自身を除きて何人にも興味を興へない.

- 1. 如何なる人の胸にも, in the breast of any single person; 2. 喚起する, awaken; 3. 興味を興へない.

い, is a matter of interest to no one.

【譯】 He awakens no sympathy in the breast of any single person; his existence is a matter of interest to no one save himself.

【註】 「たつた一人の人」は any single person と譯す; a matter of no interest to any one とせずして, a matter of interest to no one save..... とせるに注意すべし.

78. 生きてゐた時誰も覚えてゐた者がいないのだから, 死んで忘れられるとは云はれない.

- 1. 生きてゐた時, when he was alive; 2. 死んで, when he dies; 3. 云はれない, cannot be said.

【譯】 He cannot be said to be forgotten when he dies, for no one remembered him when he was alive.

【註】 He を主格にせるに注意すべし, he is said..... の如きは屢々見る事だが he cannot be said と云ひ得るや否やの疑問が起ることがあるものであるから.

81. 實際此大都會には唯一人の友をも有せざる如く, また誰も構はぬ如く見ゆる住民の一大階級が存在してゐる.

- 1. 大都會, this great metropolis; 2. 誰も構はぬ如く見ゆる, nobody appears to care for; 3. 住民の一大階級, a numerous class of people.

【譯】 There really is a numerous class of people in this great metropolis who seem not to possess a single friend, and whom nobody appears to care for.

【註】 A numerous class の numerous は people に對

する形容詞であるに係はず之を class に附したるは修辭學上で云ふ Transferred epithet である、之は「人」に附すべき形容詞を「物」に附するの謂で有名な Gray の哀詩の第一節にある plods his weary way なども之である。

82. 家庭及友人に吾人を連結する羈絆を切斷するのは困難なことであるが、それより一層困難なのは幸福な時代の百千の記憶を消除することである。

- 1. 羈絆を切斷する, to break the ties; 2. 百千の記憶, the thousand recollections; 3. 消除する, to efface.

【譯】 It is hard to break the ties which bind us to our homes and friends, and harder still to efface the thousand recollections of our happy days.

【註】 To break は cut off とも云はれる、「羈絆」は ties と譯すが適當である; efface は「痕跡を消す」の意である。

83. 小供等が草の上に遊んでゐた、一團の人が喋つたり笑つたりしながら逍遙してゐた——が其人は注意もせず注意もされずに只絶間なく彼方此方歩いてゐた。

- 1. 喋つたり, chattering; 2. 逍遙してゐた, were loitering about; 3. 注意もせず, unheeding.

【譯】 Children were playing on the grass, a group of people were loitering about, chatting and laughing—but the man walked steadily up and down, unheeding and unheeded.

【註】 二つの句が and を用ひず comma によりて連

結されたるに留意すべし; dash は茲で對照を強める爲に用ひたので while と云ふに稍相似てゐる。

84. 都會に於て吾人の重なる樂しみの一とするのは特別な商店の漸進即其發展又は滅亡を注視することである。

- 1. 重なる樂しみ, principal amusements; 2. 漸化, the gradual progress; 3. 發展又は滅亡, the rise or fall.

【譯】 One of our principal amusements in the city is to watch the gradual progress—the rise or fall—of particular shops.

【註】 此 dash の用法は 83 の場合と異なり namely の代用である。

85. 吾人は既に、町の幾多の方面に於て、幾多(の店)と懇意な間柄になつてしまつた、そして完全に其全歴史を知つて居る。

- 1. 幾多の方面, different parts; 2. 懇意な間柄になつてしまつた, have formed an intimate acquaintance; 3. 完全に, perfectly.

【譯】 We have formed an intimate acquaintance with several, in different parts of town, and are perfectly acquainted with their whole history.

【註】 日本語の「幾多の」又「數多の」などが英語の several, different に相當することの多きに注意すべし。

86. 吾人は即座に、過去六年間確かに少しも税を納めぬのを、少なくとも二十軒は指名し得られた。

1. 卽座に. off-hand ; 2. 確かに, we are quite sure ;
3. 過去六年間, for the last six years.

【譯】 We could name off-hand twenty houses at least, which we are quite sure have paid no taxes for the last six years.

【註】 Twenty houses at least 及 we are quite sure なる句の位置によく注意すべし。「此...年間」又「過去...年に亘りて」などいふ時は必 for the last...years と譯す。

87. 本式の都會暮しの人に正餐以外に何等かの日日の楽しみありと云ひ得るならそは其人の庭園である。

1. 本式の, regular ; 2. 都會暮しの人, a cityman ;
3. 日日の楽しみ, daily recreation.

【譯】 If a regular city man can be said to have any daily recreation beyond his dinner, it is his garden.

【註】 If の用法の少しく普通と異なるに注意する、「本式の江戸つ子」など云ふ場合の「本式の」は regular と譯すがよい、但し元は「外形上の本式」を意味するので「純粹の」又は「眞の」には當つて居らぬ。

88. 彼は自分自身の手は少しもそれに加へない；がそれにも係はず彼は大にそれを誇としてゐる。

1. 少しもそれに加へない, never does anything to it ;
2. 大にそれを誇としてゐる, takes a great pride in it.

【譯】 He never does anything to it with his own hands ; but he takes a great pride in it notwithstanding.

【註】 But と notwithstanding とを一文中に用ひるの

は好くないと文法家で云ふ者もあるが實際の文例には口調上之を併用したのが往々ある。「.....を誇とする」と云ふ際の「を」は in に相當する。

89. 若し諸君が末の娘に結婚する爲に言寄らうと思つたら、庭園の中にある花と灌木を一々大に賛めそやす事を忘れてはならぬ。

1. 結婚する爲に言寄る, paying your address ;
2. 大に賛めそやす, to be in raptures ;
3. 忘れてはならぬ, be sure (to).

【譯】 If you are desirous of paying your addresses to the youngest daughter, be sure to be in raptures with every flower and shrub it contains.

【註】 Be sure は此様に用ひると don't forget と云ふに同じ意味でそれよりもつと idiomatic である； to be in raptures は「奇麗だ々々と云つて有頂天になる」の意に用ひる。

90. 吾人は諸君に彼の葡萄酒よりも彼の庭園に多くの賛辭を費やすことを御薦めする。

1. 多くの賛辭を費やすこと, your bestowing more admiration ;
2. 御薦めする, to recommend.

【譯】 We recommend your bestowing more admiration on his garden, than his wine.

【註】 Bestowing に代ふるに ravishing を以てすることも出来る、than his wine の前に on を省くのは會話調の場合に多いのである。

91. 彼は必朝町へ出立するに先つて其周圍を一巡散

歩する、そして養魚池が特別に奇麗になつてゐるといふことを特別に氣にする、

1. 町へ出立するに先つて, before he starts for town;
2. 養魚池, the fish-pond; 3. 特別に奇麗に, specially neat; 4. 氣にする, anxious.

【譯】 He always takes a walk round it, before he starts for town in the morning, and is particularly anxious that the fish-pond should be kept specially neat.

【註】 Town の前に冠詞を置かぬことが多いのに注意する、先の of town 及茲の for town など皆それである。Anxious は此の如き場合には「大切なこととして心に掛る」といふ意味で用ひるのである。

92. 夏の日曜日に正餐の一時間位前に彼を訪問すると、麥藁帽を冠つて日曜新聞を読みながら屋背の芝生に肱掛椅子に坐して居るのに遇ひます。

1. 夏, in summer time; 2. 麥藁帽を冠つて, with a straw hat on; 3. 屋背の芝生に, on the lawn behind the house.

【譯】 If you call on him on Sunday in summer time, about an hour before dinner, you will find him sitting in an arm-chair, on the lawn behind the house, with a straw hat on, reading a Sunday paper.

【註】 On Sunday に冠詞の略しあるに注意する; 此様な場合に of a Sunday と云ふことがある之は「日曜日に時折」と云ふ意味である; on the lawn 以下各句の排列順に留意すべし。

93. 少し離れた所に大概の場合に大きな真鍮の網籠に入れある美しい長尾鸚鵡が目につきます; 十中八九は必年上の娘が二人歩道の一を道遇してゐます。

1. 大概の場合に, most likely; 2. 長尾の鸚鵡, a paroquet; 3. 十中八九は, ten to one; 4. 歩道, the side walks.

【譯】 A short distance from him you will most likely observe a handsome paroquet in a large brasswire cage; ten to one but the two eldest daughters are loitering in one of the side walks.

【註】 「大概は……だ」と想像して云ふ時は most likely 又は most probable を用ひるがよい; two elder daughters と云ふべきだが實際の場合 eldest 最高級形を用ひる事が多い; 公園、庭園などの散歩用路は side walk と譯す。

94. 彼が其庭園より得る樂みは其を實際に愛玩することよりよりも其を所有してゐるてふ自覺より生ずることの方が多いやうに見へる。

1. 實際に愛玩すること, actual enjoyment of it; 2. 所有してゐるてふ自覺, the consciousness of possession; 3. 生ずる, to arise.

【譯】 His delight in his garden appears to arise more from the consciousness of possession than actual enjoyment of it.

【註】 「……を樂む」例へば「本を読むのを楽しみとする」などいふ場合の「樂む」は take delight in と in を用

ひる: He takes delight in reading books. などの如く.

95. 語は手段として用ふべく目的として用ふべからず, 言語は道具である, 人の自覺を呼び醒ますことが其仕事である.

- 1. 語, words; 2. 言語, language; 3. 人の自覺を呼び醒ますこと, conviction.

【譯】 Words should be employed as the means, not as the end: language is the instrument, conviction is the work.

○ 【註】 Word は一つ一つの語で language は之が總稱である, されば a language と云へば「一國語」と云ふことになる, 而して總稱的名詞を用ひるに當りて特に之に何等かの特義を含ませざる限り a は勿論 the も付けぬ方がよい.

96. 如何なる人の心と雖美しい春の朝が魔術的作用を起さしめざるものはあるまい.

- 1. 美しい春の朝, a bright spring morning; 2. 魔術的作用, a magic influence.

【譯】 What man is there, over whose mind a bright spring morning does not exercise a magic influence?

【註】 否定の句が往々疑問形に譯さるるに注意すべし; over は exercise に附屬せる前置詞である.

97. 病人が何故醫者を迎へにやらぬかと尋ねられた時に「私はまだ死にたく少しも思はぬからです」と答へた.

- 1. 何故醫者を迎へにやらぬか, why he did not

send for a physician; 2. 少しも思はぬ, have no mind to.....

【譯】 A sick man, being asked why he did not send for a physician, answered: "It is because I have no mind to die yet."

【註】 A sick man, when asked..... としてもよい; 「醫士」は physician と譯すがよい, doctor は俗用語である.

98. ボートが續々と横付にされた, ^後そしてから後から客人が到着した.

- 1. ボートが續々と, boat after boat; 2. 横付にされた, came alongside.

【譯】 Boat after boat came alongside, and guest after guest arrived.

【註】 「續々と」又「後から後から」は after で表はされる而して此場合 after の前後の名詞は冠詞のない單數形である.

99. 此午後の暑さは非常に酷しい, ^後そして人々は赤く塗り立ての食卓のやうに熱さうな息をしてゐる.

- 1. 非常に酷しい, is intense; 2. 赤く塗り立ての, the table which have been recently painted red.

【譯】 The heat is intense this afternoon, and the people look as warm as the tables which have been recently painted red.

【註】 形容詞 intense は「寒暑」又は「感情」の最烈しきを表はす場合に用ひるのである; which have been は例

の如く省略することも出来る。

(100.) 一日中彼方此方に行き交ひし群集もずんずん間ばらに薄れてゆく; そして居酒屋から起る叫聲と喧嘩の音が夜の陰々たる静けさを破る殆ど唯一の響である。

- 1. 彼方此方に行き交ひし, have been passing to and fro;
- 2. ずんずん, rapidly;
- 3. 間ばらに薄れてゆく; are dwindling away;
- 4. 夜の陰々たる静けさ, the melancholy stillness of the night.

【譯】 The crowds which have been passing to and fro during the whole day are rapidly dwindling away; and the noise of shouting and quarrelling, which issues from the public-houses is almost the only sound that breaks the melancholy stillness of the night.

【註】 動詞 dwindle は「物のカサのげつそり減る」と云ふ意を表はすに最適當な語である; issue は「狭い所から廣い所に物が出る」と云ふ場合に用ひべき動詞である。

入△EXERCISE II.

- 1. 電氣的効果を聴衆に與へた演説は少ない。
 - 1. 電氣的効果, an electrical effect;
 - 2. 與へた, have produced;
 - 3. 演説は少ない, few speeches.
- 2. 名稱の中に R がない月に蠣を食べるのは時節外れで且健康によくない。
 - 1. 名稱の中に R がない月に, in all months that

have not an R in their name; 2. 時節外れ, unseasonable; 3. 健康によくない, unwholesome.

3. 賞賛の價なく, そしてまた非難するに當らぬものはよい裝飾用繪畫である。

- 1. 賞賛の價なく, unworthy of praise;
- 2. 非難するに當らぬ, undeserving of blame.

4. 逆説を言張る人と論争する勿れ; 彼若しそれを信ずるにあらざれば汝を喜び待つあるなり。

- 1. 言張る, asserts;
- 2. 論争する, to dispute;
- 3. 汝を弄び待つあるなり, is amusing himself with you.

5. 若き母は生が吾人に示す最美しき光景の一ならずや。

- 1. 生が吾人に示す, life shows us;
- 2. 最美しき光景, the sweetest sights.

6. 英人は自由の民だと假想してゐる。實際にさうなのは國會議員の選舉の間だけである。

- 1. 自由の民だと, they are free;
- 2. 假想してゐる; fancy;
- 3. 實際にさうなのは, that they are so.

7. 黨派區別は、之を概して善果あるものにせよ或は惡果あるものにせよ、自由の政體とは分離すべからざるものである。

- 1. 黨派區別, party divisions;
- 2. 之を概して....., whether on the whole operating for good or evil.

8. 如何なる政府も強大なる反對黨なくして長く安全なることは不可能である。

- 1. 強大なる反對黨, a formidable Opposition;
- 2. 長

く安全, long secure.

9. 祖國! 異國との交際に恆に正しきに居らんことを; さはれ, 善かれ悪かれ, 祖國は祖國である.

1. 祖國, our country; 2. 異國との交際に, in her intercourse with foreign nations; 3. 居らんことを, may she always be.

10. 保護者とは常に傲慢に人を支配し, 諂諛を以て之に報いらるる馬鹿者の謂である.

1. 傲慢に, with insolance; 2. 支持し, supports; 3. 之に報いらるる, is paid with.

11. 世界に於ける最大河の原頭を尋ねよ, 汝は其水の泡沫に過ぎざるを發見すべし.

1. 最大河の原頭, the heads of the greatest rivers; 2. 水の泡沫に過ぎざるを, but the bubbles of water.

12. 勞働する人民の貧なるは其數多きがゆゑのみである.

1. 勞働する人民, the labouring people; 2. 其數多きが故, because they are numerous.

13. 公衆だつて! なんだ公衆は大きな赤子に過ぎぬ.

1. 公衆だつて! the public! 2. 大きな赤子に過ぎぬ, nothing better than a great baby.

14. 微妙なる常識を以て田夫野人を感化せんとするは, 剃刀を以て木塊を樵らんとするに似てゐる.

1. 微妙なる常識, fine sense; 2. 感化せんと, to work upon; 3. 木塊を樵る, to hew blocks.

15. 各人盡く自由ならざる限り何人も完全に自由なる

ことは出来ない; 各人盡く幸福ならざる限り何人も完全に幸福なることは不可能である.

1. 各人盡く自由ならざる限り, till all are free; 2. 何人も完全に自由なる事は出来ない, no one can be perfectly free.

16. 若し行ふといふことが知るといふことの如く容易ならば行ふといふことに何の効果があらうか.

1. 行ふといふこと, to do; 2. 知るといふことの如く, as to know; 3. 何の効果があらうか, what good is there.

17. 彼は何事も必間違つてやるといふ新奇妙な機才があつた.

1. 何事でも間違つてやる, doing everything the wrong way; 2. 奇妙な機才, singularly ingenious knack.

18. 棘を蹴るといふことは困難なことである.

1. 棘, the pricks; 2. 蹴る, to kick against; 3. 困難な事である, it is hard for you.

19. 不景氣知らずでそして金の不足も知らぬ人があるだらうか.

1. 不景氣, the hard times; 2. 人があるだらうか, is there anybody.....?

20. 少許の哲理は人の心を無神教に傾ける; 然し深き哲理は人の心を宗教に傾く.

1. 少許の哲理, a little philosophy; 2. 無神教, atheism; 3. 深き哲理は, depth in philosophy.

21. 吾人に快樂の法則を教ふる自然は亦吾人に其境界をも吾人に訓へる.

1. 其境界, the bounds thereof; 2. 訓へる, instruct in.

22. 人間の心は詩の世界である; 想像力は其雰圍氣に過ぎぬ.

1. 人間の心, the human heart; 2. 雰圍氣, atmosphere.

23. 恐らく如何なる人と雖, 心に少しく不健全なる所がなければ詩人たることは出来ない, 猶詩を楽しむことも出来ない.

1. 心に少しく不健全なる所がなければ, without a certain unsonndness of mind; 2. 詩を楽しむ, enjoy poetry.

24. 天才の最驚嘆すべく且壯麗なる證據は文明なる時代に作出せられたる偉大なる詩であると確信してゐる.

1. 驚嘆すべく, wonderful; 2. 壯麗なる, splendid; 3. 作出せられたる, produced; 4. 確信してゐる, we hold.

25. 自由を愛するは他人を愛することである; 權力を愛するとは自分自身を愛することである.

1. 自由を愛するは, the love of liberty; 2. 他人を愛すること, the love of others; 3. 自分自身を愛すること, the love of ourselves.

發行所

東京市小石川區
櫻木町六番地

電話番町三五八一番
振替東京一四四八四番

北文館



大正六年四月二十日印刷
大正六年四月廿三日發行

【正價金七拾五錢】

著者

和田垣謙三
若目田武次

發行所

東京市小石川區櫻木町六番地
葛岡龍吉

印刷人

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
窪政鉄

印刷所

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
株式會社秀英舍工場

日本女子大學校教授 松浦政泰著

英語譯解の原理

正價 金參拾五錢
郵税金 四錢

本書は著者が多年教授の實驗に基き英語初學者のため分解法と作表法とにより英文の構造を明瞭に解説し英語の譯解に一新機軸を出したるものにして、且四百五十餘の練習問題と其解答を附したれば獨修の好指針たること云ふを俟たす特に高等學校入學受験の參考書として比類なき良書なり

北文館發兌

早稻田大學教授 岸本能武太著

英語發音の原理

定價 金七拾五錢
郵税金 六錢

著者が三十餘年の研學と教授の經驗に基き、近時大に進歩せる英語發音學を經とし、又英語の發音に對して特に日本人の感ずる困難を緯として編成したるもの、ABCの讀み方、母音、子音の區別及其發音法、半母音と重母音の發音、語の切り様、アクセントの性質及び所在に關し、其要訣を網羅して遺す所なく、親切丁寧に説明したるものなれば此種の好著殆んど絶無なる、本邦英語界にありて貴重の寶典たらずんばあらず

北文館發兌

東京外國語學校教授 村井知至 明治專門學校教授 大橋榮三共譯

英和 西洋徒然草

定價金七十五錢 送料金八錢

本書 佛國シャンフォール氏、米國リード女史、英國デスレ
リー卿及ホップス女史等一代の警句家の輕妙洒落趣味津々
たる妙句七百有餘を蒐集し之れに譯者苦心の譯文を附した
るものにして、單に我忍ヶ岡の法師のそれに比して更に多
く讀者に感興を與ふるのみならず、英文難句和譯の架とし
て英學生に裨益する所蓋し尠々ならざるべし。

北文館發兌

外國語學校教授 村井知至著

和文英 英文講談

四六版美本 定價五拾五錢 送料金六錢

本書は著者が多年教授の實驗に徴して我國英學生の最も難
んずる和文英譯の練習に資せんとする者にして各章の主要
なる語句は別に脚註によりて二三別様の英譯を附し且周
なる解釋を施され又卷末には練習問題を附せられたる和
英譯の寶鑑なり。其英文講談と題されしは話題を從來の講
談物に取り讀む者をして武士的美風の感化に浴せしめ不
次の間に精神修養を遂げしめんとする著者の用意による
第一章 劍士、荒木又右衛門 第二章 清僧、白隱禪師
第三章 俠客幡隨院長兵衛 第四章 耐女春日局、白隱禪師
第三章 藤堂仁右衛門 第六章 明將、北條早雲

北文館發兌

東京帝大教授 フローレンツ序
文學博士 鼓響 谷著

ゲーテ作 フアウスト評論
自傳劇曲

製本 四六
酒版 二十八頁
定價 金二十八錢
郵稅 金十二錢

●フアウストの近代的解釋 ●創作的文學評論
眞にフアウストを理解したならば讀了後、自分の人格が一變して仕舞ふ程でなくば嘘だ。然しかゝる徹底的理解にはフローレンツ博士の序にある如く素養ある獨逸人すら特別に深く研究した書の助が要る。本著はゲーテ以前の總のフアウスト文學を詳述評論し充分の豫備智識を與へて後、此大作を根本的に理解させ傍ら大文豪の生涯に親まじ乍ら平易に面白く此大作を觀賞させ其結果は原文を讀むに優る感あらしむ

北文館發兌

學習院教授 金澤久校閱 橘永生譯

トム、ブラウングビー在校記

四六版美本四百餘頁
定價 金八拾五錢
郵送料 金八錢

トム、ブラウンは學生の龜鑑なり、アルノルド博士は教育者の典型也、而してラグビーは天下の模範中學なり。天真爛漫たるトムの品性と剛毅金鐵の如く、温情慈母の如き博士の薰化が相伴ふて後年の國士を生み出す所ラグビーの名をして宇内に高からしめたる變化と曲折の跡は悉く收めて本編にあり

北文館發兌

慶應大學 馬場孤蝶君序 永代靜雄君譯

都會病

四版 定價金一圓八十錢
送料金八錢

フランス現文壇の巨匠ルネ・バサン氏一代の傑作『死ぬる土』を全譯して『都會病』と題す。此編文明の田園に及ぼす影響罪惡を活寫して餘さず其内容日本現代の病弊に通じ讀過慄然たるを禁せず。譯者は此書を純藝術品として讀書界に薦むる前、先づ嚴肅なる社會問題小説として憂國經世の士殊に地方在住者諸君の熟讀を熱望す。

佛國ジラルダン夫人著 早大教授 安藤忠義君 共譯
和垣博士閱並序 早大文學士 武者金吉君

如意杖

正價金壹圓
送料金八錢

隱形六十年。佛國文豪『バルサツク君の杖』は今や我和垣博士の手に落ち突如として『如意杖』となつて我文壇に再現せり、其着想の奇抜にして洒落たる一讀讀者をして恍惚たらしむるものあり、如意杖の天機多く洩らすべからず、其全篇に漲る佛國芬氣に觸れざるものは未だ共に佛國文學を語るべからず。

ステツキ
奇談

北文館發兌

第一高等學校教授岡田實磨先生編譯
世界傑作短篇叢書

小形美裝箱各入五金拾五錢送料金八錢

ボ一氏原著

かぶと蟲

本書收むる所「かぶと蟲」、「渦卷」、「没落」の三篇にして甲は技巧の極致を示し、乙は空想の結晶、丙は純藝術的傑作にして、共に原著者の三代表的作物たり。譯筆亦豊麗にして正確善く原書の妙趣を發揮せり。

シエンキーウィッツ原著

理想郷

見よ亡國流離の民が祖先墳墓の故國を逐はれて新理想郷の土となる一代の悲劇を。其戀愛、勞働、愛國、正義に關する大疑問は實に看過すべからざる人道の懸案たり。

北文館發兌

伯林大學教授 リー博士著附書簡及肖像
東大教授 桑木博士閱並序 文學士 安井辰衛君譯

現代哲學講話

菊版上製
定價金一圓五十錢
郵送料金十二錢

本書はカント哲學に於て一方に權威たり兼てニーチエに多大の同情を有する著者が現代の哲學的努力を紹介せんが爲め試みたる講演に基いて著したるものを平易に譯出したる者なり。目次。第一講哲學の本質と發展、第二講近世に於ける哲學、第三講批評哲學、第四講認識の原理、第五講自然科學的一元論と哲學的一元論、第六講人生觀の問題、第七講ショーペンハワーとニーチエ、第八講哲學ノ現在と將來

北文館發兌

日本女子大學教授 松浦政泰先生著

代表的世界文學物語

定價金八拾錢
送料金八錢

古くはホーマー、ダンテ、チヨース、ミルトン、近くはゲーテの「ファウスト」ユーゴの「噫無情」イブセンの「人形の家」トルストキの作に至る迄希臘羅馬英佛獨露西那の代表的傑作の縮圖即ち本書の面目也。其名を知つて其筋を知らぬ人は本書によつて世界的大作の妙趣を會得し又世界文學の空氣を呼吸することを得ん。

文學士 小松武治君編

沙翁史劇物語

四六版美裝
金一圓二十錢
送料金八錢

本篇收むる所沙翁史劇物語全部にしてコリオレーナス、ヂュリアス、シーザ、アントニウス、クレオパトラ、ジョン王、リチャード二世及三世、ヘンリー四世五世六世及八世の十篇なり、沙翁劇の如何を知らんと欲する者は馬英吉利の興亡の跡を辿り且其歴史の中心人物として活躍せる英雄烈婦の性格を學び國家と人生に關する實地の教訓を受けんとする者は必ず一讀せられよ。

北文館發兌

早稻田大學教授 文 士 内ヶ崎作三郎著 (裝釘優美挿畫七葉 四六版四百十餘頁)

英國より祖國へ

本書は著者が滯英中オックスフォードを中心として獨、佛、以等歐洲の諸大陸を始め米國に漫遊し或は傾學鴻儒を訪ひ或は名勝古蹟を尋ね或は古今の文學美術を鑑賞し折に觸れ所に接したる感想を輯録したるものにして正に之れ趣味深く含蓄多き最近歐米の文明史論を著者獨特の快筆を以て描出したるものなれば苟も歐米最近の消息を知らんとする紳士淑女の一讀せざるべからざる者たるや論なし

定價金壹圓
送料金拾錢

北文館發兌

法學博士 浮田和民先生著

縮刷 社會と人生

美裝箱入
定價金壹圓拾錢

本書は博士が社會と人生とに關する重要なる諸問題を最も慎重に且明晰に解釋せられたる者にして其如何に人生に必要な知識の提供なるかは左の目次に就て如るべきなり

社會篇 第一章 社會及倫理問題、(一)將來の文明に對する古代歴史の觀察、(二)耶穌基督と世界の歴史、(三)東西文明の融和、(四)國際上の道徳、(五)新日本の道徳、(六)精神界の新紀元(七)倫理叢話、第二章 宗教時論、(八)歸一の理想、(九)二十世紀の基督教、(十)教説と信仰の分離、(十一)國家と宗教、(十二)内務省の宗教方針、(十三)基督教と社會問題 第三章 宗教問題、(十四)宗教とは何ぞや、(十五)宗教の定義、(十六)人格的宗教、(十七)人生と宗教、(十八)見神論、(十九)余が新佛教觀、(二十)將來の宗教

人生篇 第四章 人生問題、(二十一)現代生活の研究、(二十二)人格満足主義、(二十三)活動主義の道徳、(二十四)健康論、(二十五)完全なる健康、(二十六)米人シンクレエル氏の斷食療法に就て、第五章 青年問題、(二十七)青年の修養、(二十八)現代青年の覺悟、(二十九)人生の一大危期、(三十)階圓形の說、第六章 家庭及婦人問題(三十一)家庭に關する倫理問題、(三十)新しき婦人、(三十三)精神的生活の動搖と婦人の覺醒、(三十四)社會生活の變化と女子の職業、(三十五)婦人の短所、(三十六)健全なる思想、(三十七)家庭と娛樂、(三十八)家庭の讀み物、第七章 教育問題、(三十九)教育叢話

北文館發兌

日本女子大學校教授 松浦政泰著

奮闘の偉人

肖像挿畫拾葉
定價金九拾錢
郵送金八錢

大阪毎日新聞の批評に曰く本書は我國を始め英、米、獨、佛、西、埃、以、噠八箇國に於ける實業家、政治家、軍人、科學者、文學者、發明家、探險家、說教家中の古今の名士三十名を選び其逆境に處する苦戰奮闘の徑路を記述して現代青年修養の資に供したる者行文平易流麗宛も新講談を讀むの觀ありて興味と教訓とを併せ享受することを得べき近頃有益なる讀物なり

北文館發兌

エレン・ケイ女史著 本間久雄君譯

來るべき時代の爲に

四六判美裝
金壹圓廿錢
送料金八錢

「人生の使使」と云はるる現代隨一の女流思想家として乃至「靈魂の教育者」として甚大の影響を現代に與へつゝある著者が最近の文明評論、社會評論を收めたる者言々句々痛烈なる現代文明の批評と解剖ならざるはなく又來るべき時代のための警告と豫言ならざるはなく現代の研究者及來るべき時代の建設者たらん者の必讀の參考書たり。

北文館發兌

東京帝國大學教授
文學博士

松本亦太郎先生新著（日本畫論の權威）

現代の日本畫

古今名畫六十餘圖挿入
菊判美本箱入五百數十頁
定價 金 一圓八十錢
送料 金 十六錢

松本博士は日本畫の心理的解釋者として、畫家養成機關の指導者（前兼京都美術學校長）として將た現代繪畫の審判者（文展審査員）として重要な職責に任じたる人なり。而して本書は斯る實歴上より得たる博士獨特なる見識の表現なり。明治大正の日本畫を論述の中堅となすと雖も、其前驅としては寧樂、平安朝より徳川末葉に至る千有餘年間の日本畫の時代的及民族的風姿を論じ其後從としては、日本畫將來の諸活問題を考ふ。論旨透徹、行文明快且挿入するに幾多古今名畫の圖を以てし、人をして一讀日本繪圖の全發展を窺ふを得せしめ、日本民族の卓拔の畫魂に親しく接觸する思あらしむ。座右の友として何人にも怡樂を感せしむる本書の如きは蓋し稀なるべし。

北文館發兌

5.12.24

323
226

終